

児童自らが挑む、みんなの安全

～目指す資質・能力を明確にして、目指す姿に近づける防災教育の取組～

福山市立千田小学校

校 種	小学校	本取組に関わる 資質・能力	知識・技能	○
対象学年等	1～6年生		思考力・判断力・表現力等	○
教 科 等	特別活動及び 総合的な学習の時間		学びに向かう力	◎
内 容 等	特別活動（全校）：学校行事_避難訓練 総合的な学習の時間（4～6年生）：災害対策、登下校の危険予測			

1 目指す資質や能力の育成のために

安全教育の目標について、第3次学校安全の推進に関する計画（令和4年3月25日閣議決定）には、次のように示されている。

日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

また、資質・能力については、「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育（平成31年3月文科省）27頁に具体的に、次のように示されている。

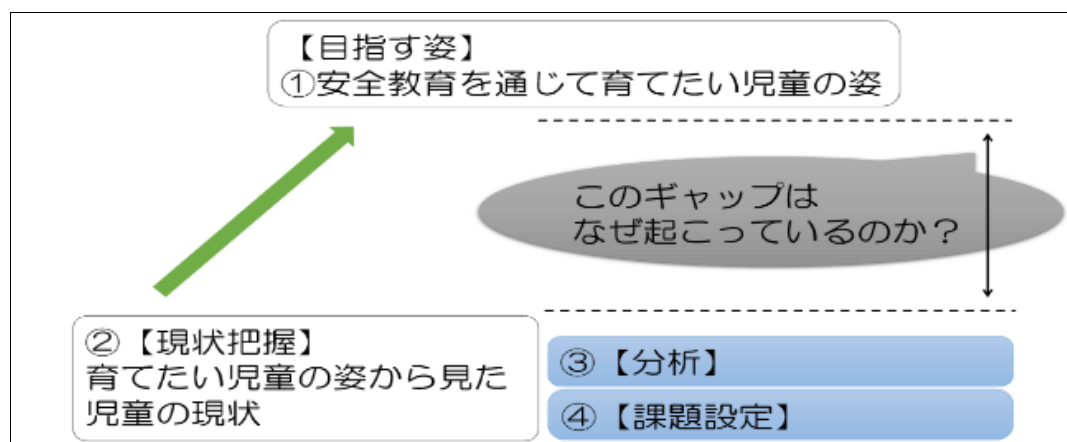
- ①様々な自然災害や事件・事故等の危険性、安全で安心な社会づくりの意義を理解し、安全な生活を実現するために必要な知識や技能を身に付けていること。（知識・技能）
- ②自らの安全の状況を適切に評価するとともに、必要な情報を収集し、安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、行動するために必要な力を身に付けていること（思考力・判断力・表現力等）
- ③安全に関する様々な課題に関心をもち、主体的に自他の安全な生活を実現しようとしたり、安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けていること（学びに向かう力・人間性等）

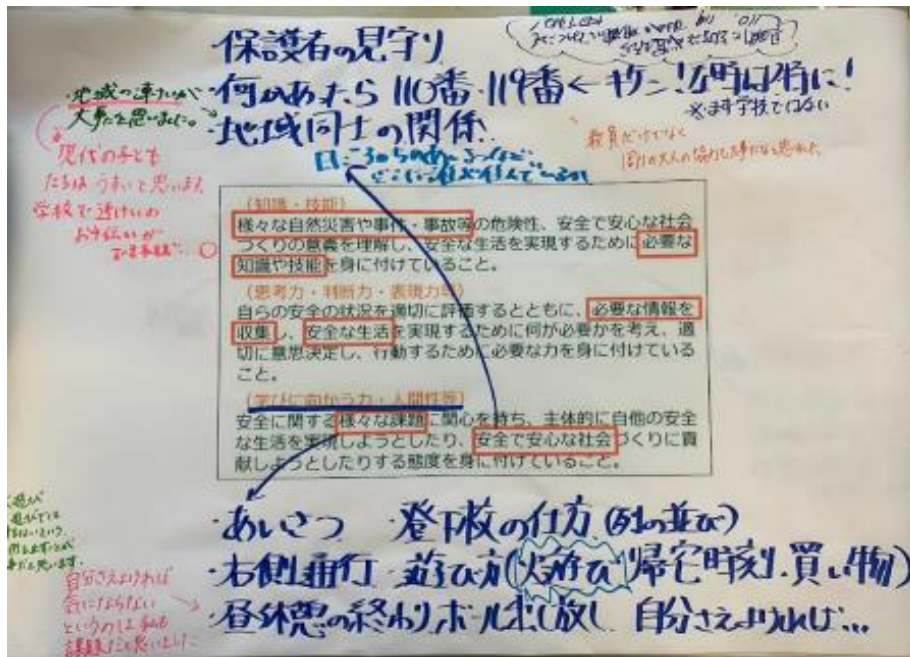
これらを踏まえ、自分の命・大切な人の命を守るため、また、地域のためにどのような行動をとっていくかについて、児童により自分ごととして考えさせたい。そのために、児童が考える機会や場面を増やすようにした。

また、災害時には児童自ら自他の命を守るような安全な行動をとるため、主体的に判断できるように、必要な資質や能力を育成することをねらいとしたいと考え、学習のねらいを設定するために、資質・能力の3つの柱に沿った児童の現状を出し合った。

2 自分ごととして考えるようにする手立て

(1) 目指す姿と現状とのギャップについて





写真：安全教育を通して育成したい資質・能力に基づく教職員での協議

(2) 目指す姿・現状把握・分析・課題設定に関して（避難訓練実施時）

①【目指す姿】避難訓練を実施する時に目指したい児童の姿とは、どのような姿か。

自分ごととして、安心で安全な生活を考えて行動をする児童たち

②【現状把握】

○静かに学校内を、教職員の指示通りに避難することができる。

- ・大人が近くにいない時に、児童だけで避難をする経験が少ない。
- ・放課後や休憩時間に災害が発生した時に、どうするかを考える場面が少ない。
- ・けが人が出たりするなど、複合的な条件の下での避難訓練は経験していない。

③【分析】

主体的に判断をさせる場面が避難訓練では少なく、より実際に即した訓練が必要であり、その場面設定が必要。

④【課題設定】新たな課題の設定とは

- ・大人が近くにいない時にも、避難行動をとることができる児童を目指したい。
- アイデア：児童同士で関わり合いながら避難をする訓練はできないだろうか。
- アイデア：児童の登下校中を想定し、地域の安全マップ作りでの危険箇所と関連させることでより自分ごととして児童に考えさせられないだろうか。
- アイデア：学校内だけでなく、家庭や地域でも同じように行動できる児童の姿を求めたい。
- アイデア：家庭での災害対策をテーマにしてはどうだろうか。

3 新たな課題設定を踏まえた取組

(1)「避難訓練」を通じて取り組むこと

ア. 取組の工夫

○学校外、二次避難場所への避難の場面設定

- ・土砂災害が発生したことを想定した二次避難場所への移動
- ・縦割り班の6年生と1年生がペアになったの避難



車道側を6年生が歩き、1年生が安心するように、声かけを行う姿が見られた。

○隣接するこども園園児と合同の場面設定

- ・土砂災害以外の訓練（火災の避難訓練）では、こども園の園児が小学3年生の発表会の練習を見に来ていたと場面を設定した。
- ・小学校3年生が園児と手をつなぎ、誘導しながら避難をすることとした。

イ. 教職員の気づき

- 小学生がこども園の園児と手をつないで、避難場所へ誘導しようとする姿を見て、小学3年生でも学年に関係なく、場を設定することで望ましい行動をしようとする事ができていた。
- これまでにはない場面設定であっても、安全に避難をすることを優先して歩いたり、園児の安全を第一に考えて間隔をあけたりという、児童の主体的な行動が見られた。



小学校とこども園とが合同で火災訓練を実施

(2)「総合的な学習の時間」と関連させて取り組むこと

ア. 学習の流れ

4～6年生が異学年グループを組み、総合的な学習の時間等において、一般的な「災害の対策」を学び、次に児童個々個人がより身近に感じることのできる「登下校の危険予測」を学ぶようにした。

■探究課題「自然災害から命を守る」

留意点○児童自ら取組を進めていくこと

○考えたことを発信していくこと

■設定したテーマ

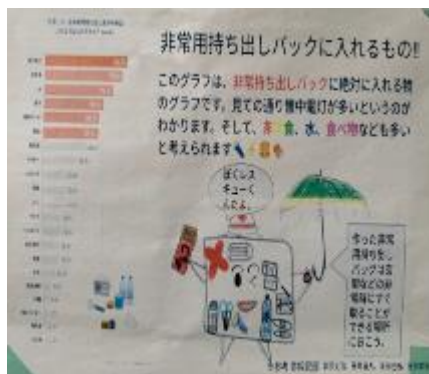
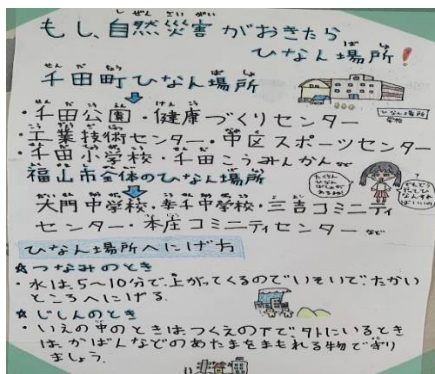
○「各家庭での災害対策」

災害発生時の避難場所をまとめたり、各家庭での非常用持ち出しバッグを調べて具体的な中身を紹介したりした。

○「登下校中の災害の危険」（大人がいない時を想定。低学年の児童にも危険性が分かりやすい）
「ガードされている水路」「地震の時に倒れてしまいそうな電柱」「土砂崩れの危険性が高い道路」等を扱う。

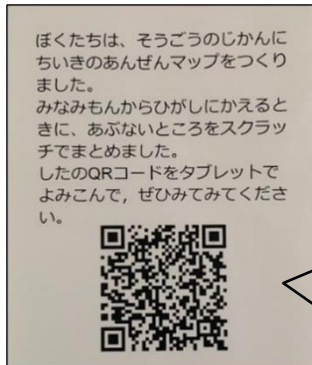
イ. 学習内容の工夫

テーマ「各家庭での災害対策」



自然災害が発生した場合の避難場所 非常持ち出しバックに入れるもの 家で非常用持ち出しバッグを作成

○「登下校中の災害の危険」



ウ. 学習方法・学習環境の工夫

○異年齢集団の活用

学年・年齢による見方・考え方、また経験や知識量など、違うことが当たりまえの状況を意図的に作り出し、より個として、学ぶ必要があることを理解させるようにした。

その結果、「いつ・どこで・だれと一緒にいるときに、自然災害が発生するか分からない」との認識を、校内で広めることができた。

○成果物の活用

児童が作成したポスターなどは、地域の公民館に掲示。児童の考えたことが、地域に広がり、地域の安全を含めたみんなの安全に資する取組とする。



エ. 児童の感想

○1年生に対応する6年生の感想

- ・避難場所まで行くのに高台を上らないといけないので、1年のみんなが疲れていないかどうか、また歩く速さは大丈夫なのかが、とても気になりました。
- ・いつ、どこで、誰と一緒にいるときに自然災害が発生するか分からないので、そういう時には、年下の子にも気付けたいです。

○「登下校中の災害の危険」について学んだ1年生の感想

- ・いつも通る道だったので、危ない所がよく分かった。
- ・次の日の登校中に、マップにあった危ない場所を確認してみた。
- ・いつも通らない道でも、遊びに行くときには気を付けようと思った。
- ・家族に「ここが危ない。」と教えてあげたい。